

平成 26 年度 事 業 計 画 書
平成 26 年度 収 支 予 算 書

自 平成 26 年 4 月 1 日
至 平成 27 年 3 月 31 日

公益財団法人 早期胃癌検診協会

目 次

I 平成 26 年度事業計画書

1	はじめに	1
2	調査研究事業	2
	(1) 共同研究事業	
	(2) 個別研究事業	
	(3) 学術研究会事業	
	① 早期胃癌研究会	
	② 大腸研究会	
3	研修指導事業	10
	(1) 日中早期胃大腸癌学術検討会	
	(2) 国内医師に対する研修	
	(3) 放射線技師に対する研修	
	(4) 平成消化器懇話会の開催	
4	普及啓発事業	11
5	検診・診療事業	12
6	法人運営	13

II 平成 26 年度収支予算書

15

I 平成 26 年度事業計画書

1 はじめに

当協会は、昭和42年9月の発足以来、主に早期胃がんの学術的及び診断技術的研究を行い、あわせてその普及に努めてきたところである。

平成24年4月1日、公益財団法人として新たにスタートしたが、消化管がんの検診・診療施設としての歴史、伝統及び業績を守りつつ、公益財団法人としての公共的責任と社会的役割を果たしていかなければならない。

当協会の使命は、生活習慣病を中心とした検診及び治療、早期胃がんをはじめとする消化器がんの学術的及び診断技術的な研究、並びに医学界及び一般社会に対する研修及び普及啓発活動を行い、もって都民のがん対策及び健康増進に寄与することである。そのため、(1)早期胃がんを中心とした消化器がんに関する診断方法及び疾病動態の研究、(2)学会及び研究会等への財政的・技術的支援、(3)医師等を対象とする消化器がん診断技術の専門的研修、(4)消化器疾患に関する健康相談及び啓発、(5)生活習慣病の予防及び早期発見に必要な各種検診並びに必要な治療を事業の柱とする。

平成26年度は、疾病構造の変化や社会ニーズの動向を踏まえ、新たな「検診のあり方」の構築に向け、具体的な準備に着手する。また、検診システムの更新や電子カルテシステムの導入を通して、業務のより一層の効率化を図る。

これらのことにより、安定的な財団運営を可能にするとともに、当協会の公共的責任と社会的役割を果たせるように努めていく。

2 調査研究事業

調査研究事業には、研究本部の研究室メンバーが共同して行う共同研究事業と職員が個別に研究テーマを設定して行う個別研究事業、そして症例検討会等を開催し支援する学術検討会事業がある。

(1) 共同研究事業

共同研究事業は、研究本部に所属する研究室がその中長期目標を達成するために行う研究事業である。平成26年度の研究テーマは、平成25年からの継続のものが5テーマであり、それぞれの研究内容は次のとおりである。

なお、研究テーマについては、外部の有識者を含めた「研究事業評価委員会」において、有用性、独創性、実現性等を評価して総合判定がA又はBであり、研究の継続・開始が承認されたものである。

<研究テーマ>

- ① より効果的な食道・胃・大腸・肺がんリスク検診に関する研究（継続）
（研究本部検診システム研究室）

日本人の疾病構造の変化に合わせた新しい視点からの「食道・胃・大腸・肺がんリスク検診」を検討する。平成25年度は、論文などで報告された資料を参考にして、飲酒（毎日）・喫煙（喫煙指数600以上）・ピロリ除菌後・ピロリ感染あり・血清ペプシノゲン陽性を高リスク群として検査方法に差をつけた胃食道がんリスク検診を考案した。この胃食道がんリスク検診に、ガイドラインに基づいた大腸がん、肺がん検診を加えた早期胃癌検診協会独自の「がん総合リスク検診」を提案した。

平成26年度は、「がん総合リスク検診」について、モデル企業の検診成績を用い、実行性、効率性やコスト面を検討する。

- ② より効果的な特定保健指導に関する研究（内臓脂肪面積データの解析）
（継続）
（研究本部保健指導研究室）

健康保険法改正に伴い平成20年から開始された特定健診において、メタボリック症候群該当者と判定された特定保健指導の有効性を高める方策について研究する。平成25年度は360名を内臓脂肪面積測定機で内臓脂肪面積を測定した。内臓脂肪の中央値は84.65 cm^2 で、101 mm^2 以上のものは28%であった。内臓脂肪面積とBMIは中等度の相関、腹囲とは強い相関があった。

平成26年度は、引き続き内臓脂肪面積測定機による内臓脂肪面積データを集積して、BMI、腹囲だけでなく、血液検査所見（脂質、血糖値）との対比検討をする。

③ 腸上皮化生の進行に伴う早期胃がんの臨床病理所見と内視鏡像の変化
(継続)

(研究本部臨床病理研究室)

胃がんの病理組織学的研究として、平成25年度は「腸上皮化生が乏しい胃腺管腺がんにおける、粘液形質と粘膜下層浸潤の関連」として、全症例は280例であり、その中で腸上皮化生の乏しい粘膜中に発生した症例についてがんの深達度と粘液形質の関係について解析を行った。胃型の粘液形質をもつ病変は早期に浸潤し易いことが判明した。研究結果は第10回国際胃癌学会(平成25年6月イタリア)で口演発表した。また、英文論文は作成中である。

平成26年度は、中等度の腸上皮化生粘膜を背景とする胃がんの粘液形質を含む病態を検討する。

④ DR-X線装置を使用した食道連続撮影の検討(継続)

(研究本部画像研究室)

デジタル装置を使用した食道X線検査の精度向上のため、デジタル装置の特徴を生かした連続撮影法と撮影視野サイズを検討し、平成25年度は、1枚/1秒の連続撮影について検討し、上部～下部食道領域で良好な二重造影像が得られた。

平成26年度は、さらに条件を変えて食道連続撮影法の有用性を高める検討を行う。

⑤ 検診胃X線検査における造影剤少量化の検討(継続)

(研究本部画像研究室)

日本消化器がん検診学会新・胃X線撮影法ガイドライン改訂版(2011年)によると、検診胃X線検査で使用する造影剤は、濃度180～220w/v%の高濃度低粘性粉末バリウム120～150mlを使用するとあるが、使用量の上限と下限には30mlの幅がある。平成24年度はバリウム量120mlと150mlについて検討して150mlが、平成25年度はバリウム量130mlと140mlについて検討して140mlを使用したほうが横胃、鉤状胃、下垂胃のいずれも良好な画像が得られた。

平成26年度は、150～120mlの造影剤量でどこまで減量可能か胃型別に画像精度に対する影響を検討する。

(2) 個別研究事業

個別研究事業は、前年度から継続して研究するものが3テーマ、今年度から新たに研究するものが2テーマの合計5テーマであり、それぞれの研究内容は次のとおりである。

なお、研究テーマについては、外部の有識者を含めた「研究事業評価委員会」において、有用性、独創性、実現性等を評価して総合判定がA又はBであり、研究の継続・開始が承認されたものである。

<研究テーマ>

① 内視鏡的正常胃粘膜症例の病態に関する内視鏡的研究（継続）

研究責任者：榊 信廣（研究本部）

胃がんリスク検診（ABC検診）の実施にあたっての問題点を検証する目的で、平成25年度は次の検討を行った。①平成24年11月～平成25年10月までの内視鏡検査では男性40.5%が、女性の50.6%が内視鏡的A群（正常胃例）であり、同例からの胃がんの発生は認めなかったが、1例食道がんを経験した。②平成25年1月～10月に内視鏡的A群211例について腺がんの発生母地として注目されているバレット粘膜（食道粘膜の円柱上皮化生）の頻度を検討した結果、バレット粘膜と診断されたのは60例（28.6%）であった。また、後ろ向きに2年以上経過を観察したバレット粘膜あり群33症例中9例（27.3%）に口側への進展を認めたのに対して、バレット粘膜なし38例では全例変化がなかった。

平成26年度は、引き続き、内視鏡的A群を対象に、①治療が必要な病変の頻度、②バレット粘膜の頻度と経時的変化を調査する。

② ラベプラゾールを用いた除菌治療の有用性の検討（継続）

研究責任者：尾割道代（診療科）

強力な酸分泌抑制作用を持つラベプラゾール（パリエット®：エーザイ）を用いた、ヘリコバクター・ピロリ除菌療法の有用性を検討する。平成25年度は登録制の前向き研究を開始した。平成25年1月から10月までに除菌治療・判定がなされた症例は、一次除菌29例、二次除菌9例、三次除菌1例で、除菌率は82.8%、100%、100%、副作用発生率は10.3%、11.1%、0%であった。

平成26年度は症例を蓄積するとともに、文献的に検索した他施設の除菌治療成績と対比検討する。

③ ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎の内視鏡診断に関する研究（継続）

研究責任者：榊 信廣（研究本部）

ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎が除菌治療の保険適応になる状況を踏まえ従来の慢性胃炎の診断は胃粘膜の萎縮を中心に評価したものであったので、新たに「炎症」の所見を加えた胃炎内視鏡診断を提唱した。平成25年度は、「炎症」の内視鏡所見とピロリ感染状態との関係を検討する目的で、次の検討を行った。①平成24年10月～平成25年3月に感染結果をブラインドにして研究責任者が個人で診断した活動性胃炎72例で検討した結果、*H. pylori*感染陽性を示す感度は97%、特異度は94%であった（*Helicobacter Reseach* 17:198-206, 2013）。②従来の内視鏡診断基準による胃の炎症の内視鏡診断がどの程度可能か早胃検の医師6名を対象に検討した結果、正診率は内視鏡専門医・非専門医ともに60%台に止まった。

平成26年度は、炎症のより普遍的な診断の可能性を検討するために、内視鏡学会の研究会で行われている胃炎の新京都分類を用いた胃炎診断について検討する。

④ 上部消化管内視鏡検査受診者における萎縮性胃炎の現況とヘリコバクター・ピロリ感染実態の把握によるピロリ菌総除菌時代の今後の課題（新規）

研究責任者：山崎琢士（診療科）

早胃検の上部消化管内視鏡検査受診者を対象に、胃がん高危険群としての萎縮性胃炎の状況とピロリ感染の実態を検討する。年齢層別の萎縮性胃炎の程度を明確にするとともに、萎縮性胃炎の経時的変化を後ろ向きに検討する。

（評価委員会では、50歳以下に対象を絞ったほうが良いとの助言があった。）

⑤ 経鼻内視鏡検査前処置内容の検討（新規）

研究責任者：尾割道代（診療科）

経鼻内視鏡検査の前処置（局所麻酔）について、煩雑で15分以上かかるスティック法と簡便で短時間で終わるスティックを使わない新しい方法に関して、患者の受容性に差があるか否かを調査し、早胃検での前処置内容の変更が可能か否かを検討する。

(3) 学術研究会事業

研究会の開催等については、これまで継続して行ってきたものを基本として、さらに充実を図っていく。開催、支援している研究会は、次のとおりである。

① 早期胃癌研究会（毎月開催）

東京都を中心に全国の大学、医療機関から提出される食道がん・胃がん・大腸がん並びに消化管の腫瘍性疾患のX線・内視鏡画像（平均5症例）と病理所見について、厳しい討論が行われる。この研究会での高度かつ専門的な症例検討は、医学雑誌「胃と腸」に掲載され、早期消化管がんの診断法の進歩及び普及に貢献している。

出席者は毎回約600名、うち都内在住者は約50%、主たる参加施設数は約90施設に及ぶ。当協会としては、主催者の一人として、理事長が運営委員会等の企画、運営に携わるとともに、医師が読影委員として読影と診断を行っている。

さらに、研究会においても当協会所属医師が毎回積極的に討論に参加し、その診断法の進歩に貢献するとともに、年数回は症例を提出するなど、討論においてリーダーシップを発揮している。

ア 早期胃癌研究会運営幹事

（平成26年1月31日現在）

【運営委員長】

齊藤 裕輔 市立旭川病院消化器病センター

【運営幹事】

（臨床） 7名

赤松 泰次 長野県立須坂病院内視鏡センター
小山 恒男 厚生連佐久総合病院胃腸科
清水 誠治 大阪鉄道病院消化器内科
田中 信治 広島大学内視鏡診療科
長浜 隆司 早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック
松本 主之 九州大学大学院病態機能内科学
山野 泰穂 秋田赤十字病院消化器病センター

（病理） 3名

九嶋 亮治 国立がん研究センター中央病院
病理・臨床検査科
二村 聡 福岡大学医学部病理学講座
八尾 隆史 順天堂大学大学院医学研究科
人体病理病態学

（五十音順）

イ 研究会における成果発表及び編集委員

＜雑誌「胃と腸」（発行元：医学書院）＞

早期胃癌研究会において検討された症例は、編集会議を経て、雑誌「胃と腸」に掲載される。また、毎号特集する主題が選定され、主題関連論文（X線診断、内視鏡診断、病理診断等）が執筆、掲載される。

ウ 平成26年4月～平成27年3月 日程予定表

日	時	会	場
4月16日（水）	18:00～21:00	日本教育会館	一ツ橋ホール
5月14日（水）	18:00～21:00	第53回「胃と腸」大会 福岡（福岡国際会議場）	
6月18日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館	2 F 国際会議場
7月25日（金）	18:00～21:00	グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール	
8月		休 会	
9月17日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館	2 F 国際会議場
10月15日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館	2 F 国際会議場
11月19日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館	2 F 国際会議場
12月17日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館	2 F 国際会議場
1月21日（水）	18:00～19:30	アジュール竹芝	ニューピアホール
2月18日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館	2 F 国際会議場
3月18日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館	2 F 国際会議場

② 大腸研究会（毎月第2月曜日開催）

この研究会は、大腸の腫瘍性疾患のみならず、炎症性疾患など大腸疾患全体について専門的な検討を行うことを目的としている。

東京都を中心に国内の大学、病院から提出される症例について、X線、内視鏡、病理所見についての最先端的な検討、討論を行っている。

当協会所属医師は、この研究会への参画を通して、若手研究者の育成に貢献している。

【代表世話人】 (平成26年1月31日現在)

鶴田 修 久留米大学医学部消化器病センター
内視鏡診療部門

【世話人】 10名

味岡 洋一 新潟大学大学院医歯学総合研究科
分子・診断病理学

池上 雅博 東京慈恵会医科大学病院病理部

大倉 康男 杏林大学医学部病理学教室

斎藤 彰一 東京慈恵会医科大学内視鏡科

高木 篤 みなと医療生活協同組合協立総合病院内科

津田 純郎 岡山市医師会総合メディカルセンター
附属診療所

富樫 一智 福島県立医科大学津医療センター
小腸・大腸・肛門科

長浜 隆司 早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック

西俣 嘉人 南風病院政記念消化器病研究所

渡邊 聡明 東京大学大学院医学研究科
臓器病態外科学講座腫瘍外科学

【会計幹事】 2名

河野 弘志 久留米大学医学部内科学講座
消化器内科部門

中島 寛隆 早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック

(五十音順)

平成26年4月～平成27年3月 日程予定表

日	時	会	場
4月28日(月)	18:00～21:00	東京商工会議所	地下2階 講堂
5月		休	会
6月23日(月)	18:00～21:00	東京商工会議所	地下2階 講堂
7月28日(月)	18:00～20:00	東京商工会議所	地下2階 講堂
8月		休	会
9月29日(月)	18:00～21:00	東京商工会議所	地下2階 講堂
10月		休	会
11月17日(月)	18:00～21:00	東京商工会議所	地下2階 講堂
12月22日(月)	18:00～20:00	会 場	未 定
1月26日(月)	18:00～21:00	会 場	未 定
2月23日(月)	18:00～21:00	会 場	未 定
3月23日(月)	18:00～21:00	会 場	未 定

3 研修指導事業

都内及び国内各地の専門医、医療技術者、さらには海外の専門医に対し、早期消化器がんの診断技術取得を目的とした研修会、セミナーなどを実施する。

(1) 日中早期胃大腸癌学術検討会

この検討会は、中国における消化器がん早期発見の推進を目的として、上海交通大学及び中華医学会内視鏡学会との共催で開催している。

本検討会は、中国本土からおおよそ600名の消化器専門医が参加し、世界に誇る日本の消化器がんの診断・治療の現況を紹介するとともに、ライブ・デモンストレーションを実施する。

平成24年度に引き続き、今年度も、中国上海市において開催する。

(2) 国内医師に対する研修

当協会は、消化管がんの診断に関してX線・内視鏡診断を含めた総合的な研修が行える数少ない施設であり、当協会での研修を希望する医師が増えている。毎年、都立駒込病院、都立墨東病院等から定期的に数名の研修医を各々3～6ヶ月間受け入れる。また、消化器内科・外科の医師を対象として、内視鏡診断に関する専門研修を実施する。

なお、当協会は、日本消化器内視鏡学会及び日本消化器がん検診学会から内視鏡・X線に関する指導施設として認定されている。

(3) 放射線技師に対する研修

当協会は、医療機関で胃X線撮影を担当する診療放射線技師を対象とする実技研修が行える施設であり、研修を希望する診療放射線技師を積極的に受け入れる。

研修は、日本消化器がん検診学会認定の胃がん検診の専門技師が指導にあたる。

(4) 平成消化器懇話会の開催

急速に進歩している消化管疾患の診断及び治療に関する最新の知識を習得する場として、地域の医師等を対象に「平成消化器懇話会」を年3回開催する。

平成26年度は以下のとおりであり、7月、10月及び平成27年2月に開催する予定である。

- ・消化管悪性リンパ腫について
九州大学病院第二内科准教授 中村昌太郎先生
- ・CTコロノグラフィについて
国立がん研究センター中央病院放射線診断科医長 飯沼元先生
- ・大腸画像診断の基礎と臨床について
市立旭川病院副院長・消化器病センター長 斉藤裕輔先生

4 普及啓発事業

消化管がんに対する正しい認識と早期発見のための定期検診の重要性をはじめとして、がん対策の基礎知識及び生活習慣病も含む幅広い健康管理法についての啓発活動を展開している。

具体的には、周辺医師会・病院等と連携のうえ講演会や読影会を開催し、上部・下部内視鏡、超音波、診断X線（胃透視）の撮影技術及び読影・診断技術の向上に努めている。また、企業の健康管理担当者等を対象にセミナーを開催するなど、企業従業員の健康管理に必要な情報を提供し、従業員健康管理を支援している。

(1) 保健指導者セミナー（「健康開発りぼーと」の発行）

保健指導者セミナーは、疾病及び健康診断の有用性を啓発することを目的としている。

対象は、健康保険組合及び各企業の健康管理室等の健康管理担当者、産業医、日本橋医師会並びに早胃検倶楽部会員等であり、年1回（10月又は11月）開催する。

セミナー終了後、保健指導者セミナーの講演記録を『健康開発りぼーと』として小冊子にまとめ、協会の検診受診者等に配布する。

平成26年度は、「大腸がんについて」を取りあげる予定である。

(2) ニュースレターの発行

協会の診療所患者や検診受診者に対して、がんや生活習慣病、検査方法等をわかりやすく解説した「ニュースレター」を隔月で発行する。

今年度は、次のテーマを予定している。

5月発行	特定保健指導
7月発行	ピロリ菌（調べ方、治療の仕方、治療後の判定の仕方）
9月発行	ノロウイルス（手洗い、消毒の仕方）
11月発行	胃X線検査
1月発行	花粉症
3月発行	（大腸・直腸）内視鏡検査の受け方

5 検診・診療事業

(1) 検診事業

企業からの委託による従業員を対象とした健康診断をはじめとして、中央区住民を対象とした区民検診、個人の方を対象とした健康診断等、さまざまな健康診断を行っている。

健康診断としては、人間ドック（日帰り半日コース）、生活習慣病検診、法定検診及び婦人科検診等の各種検診を取り扱っている。今年度は、約12,000人の検診を予定している。

また、企業の従業員検診については、委託企業へ出向きそこで検診するという巡回検診にも対応している。今年度は、約9,000人の検診を予定している。

(2) 診療事業

附属茅場町クリニックは、地域住民、近隣事業所勤務者のほか、近隣医療機関等からの紹介により、当クリニックの受診を希望する方を対象に外来診療を行っている。

診療日：月曜日～土曜日（土曜日は、第2及び第4週の午前中のみ）

診療時間：午前9時～午後4時（午前11時30分～午後1時を除く。）

診療科目：内科、消化器内科、放射線科、
呼吸器専門外来、肝臓専門外来

来院見込数（年間延べ人数）：10,000人

(3) 特定保健指導

特定健診においてメタボリック症候群該当者と判定された特定保健指導対象者に対して、特定保健指導を行っている。

指導日：火曜日及び木曜日

指導時間：午後1時～午後4時

指導内容：医師による面談、保健師による指導、行動目標及び行動計画の作成等

6 法人運営

(1) 評議員会・理事会の開催予定

平成26年 5月下旬	理事会（決算）
平成26年 6月中旬	評議員会（決算、理事及び監事選任）
平成26年 6月中旬	理事会（代表理事選任）
平成26年11月下旬	理事会（業務執行状況報告）
平成27年 3月下旬	理事会（予算）

(2) 研究用機器の整備

研究対象の底辺拡大、がん検診の高度化及び総合化への社会要請の変化に対応し、質・量ともに研究事業の成果の向上及び検診事業の充実を図るため、研究用機器を整備する。

(3) 資金計画

機器装置、設備等の更新をはじめ事業に必要な資金は、自己資金のほか寄附金及び賛助会費等の援助を得て賄うとともに、計画的な執行に努める。

(4) 法令遵守（コンプライアンス）の徹底

当協会の運営に関する法令、規程等を職員に周知するとともに、その遵守を徹底し、職員のコンプライアンス意識を高める。

(5) 業務の効率化

検診システムを更新するとともに、電子カルテシステムを導入することにより、より一層の業務の効率化を図る。

Ⅱ 平成 26 年度収支予算書

平成26年度 収支予算書

(正味財産増減予算書)

平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで

(単位:千円)

	公益目的事業 会計	法人 会計	内部取引 控除	平成26年度予算 (A)	平成25年度予算 (B)	増 減 (A-B)
<一般正味財産増減の部>						
I 経常増減の部						
1. 経常収益						
① 基本財産運用益						
基本財産受取利息	1,505	0	0	1,505	1,554	△ 49
基本財産受取配当金	0	0	0	0	503	△ 503
③ 特定資産運用益						
特定資産受取利息	307	0	0	307	0	307
② 受取会費						
賛助会員受取会費	6,693	0	0	6,693	7,473	△ 780
③ 事業収益						
診断診療収益	565,162	58,981	0	624,143	656,466	△ 32,323
研修受託収益	0	0	0	0	7,630	△ 7,630
④ 受取寄附金						
一般受取寄附金	9,915	0	0	9,915	20,000	△ 10,085
研修事業寄附金	1,500	0	0	1,500	4,000	△ 2,500
⑤ 雑収益						
受取利息	20	0	0	20	522	△ 502
雑収益	1,313	0	0	1,313	1,613	△ 300
経常収益計	586,415	58,981	0	645,396	699,761	△ 54,365
2. 経常費用						
① 事業費						
給料手当等	293,104	0	0	293,104	283,274	9,830
退職給付費用	5,656	0	0	5,656	5,342	314
福利厚生費	33,063	0	0	33,063	31,774	1,289
旅費交通費	1,945	0	0	1,945	2,445	△ 500
通信運搬費	5,584	0	0	5,584	5,682	△ 98
医療材料費	34,903	0	0	34,903	40,526	△ 5,623
消耗品費	15,718	0	0	15,718	19,823	△ 4,105
修繕費	21,986	0	0	21,986	22,646	△ 660
図書費	1,490	0	0	1,490	1,493	△ 3
印刷製本費	7,652	0	0	7,652	9,038	△ 1,386
光熱水料費	4,088	0	0	4,088	4,099	△ 11
賃借料	79,789	0	0	79,789	79,789	0
委託費	78,891	0	0	78,891	95,228	△ 16,337
リース費	621	0	0	621	1,324	△ 703
会議費	669	0	0	669	229	440
保険料	470	0	0	470	410	60
支払負担金	801	0	0	801	801	0
支払手数料	1,257	0	0	1,257	1,100	157
交際費	200	0	0	200	200	0
広告費	252	0	0	252	604	△ 352
減価償却費	52,551	0	0	52,551	59,006	△ 6,455
租税公課	8,420	0	0	8,420	5,914	2,506
雑費	1,937	0	0	1,937	1,893	44

	公益目的事業 会計	法人 会計	内部取引 控除	平成26年度予算 (A)	平成25年度予算 (B)	増 減 (A-B)
② 管 理 費						
給 料 手 当 等	0	43,144	0	43,144	45,324	△ 2,180
退 職 給 付 費 用	0	2,725	0	2,725	2,691	34
福 利 厚 生 費	0	5,692	0	5,692	6,105	△ 413
旅 費 交 通 費	0	360	0	360	360	0
通 信 運 搬 費	0	100	0	100	100	0
消 耗 品 費	0	100	0	100	100	0
図 書 製 本 費	0	50	0	50	50	0
印 刷 製 本 料	0	170	0	170	170	0
光 熱 水 借 料	0	144	0	144	188	△ 44
賃 借 託 費	0	1,995	0	1,995	1,995	0
委 託 費	0	149	0	149	369	△ 220
リ ー ス 費	0	0	0	0	0	0
会 議 費	0	550	0	550	480	70
保 険 料	0	1,329	0	1,329	1,329	0
支 払 負 担 金	0	102	0	102	102	0
支 払 寄 附 金	0	50	0	50	50	0
支 払 手 際 料	0	30	0	30	30	0
交 際 費	0	100	0	100	100	0
減 価 償 却 費	0	351	0	351	280	71
顧 問 料	0	1,710	0	1,710	1,710	0
雑 費	0	130	0	130	70	60
経常費用計	651,047	58,981	0	710,028	734,243	△ 24,215
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 64,632	0	0	△ 64,632	△ 34,482	△ 30,150
3. 基本財産評価損益等				0	0	0
4. 特定財産評価損益等				0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 64,632	0	0	△ 64,632	△ 34,482	△ 30,150
II 経常外増減の部				0	0	0
5. 経常外収益	0	0	0	0	0	0
6. 経常外費用	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0
他会計振替	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 64,632	0	0	△ 64,632	△ 34,482	△ 30,150
一般正味財産期首残高	516,270	0	0	516,270	550,752	△ 34,482
一般正味財産期末残高	451,638	0	0	451,638	516,270	△ 64,632
< 指定正味財産増減の部 >						
7. 一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0
正 味 財 産 期 末 残 高	451,638	0	0	451,638	516,270	△ 64,632

※平成25年度予算のうち一般正味財産期首残高は、平成24年度正味財産増減計算書の一般正味財産期末残高550,752千円を計上している。

平成26年 4月 1日

公益財団法人 早期胃癌検診協会 事務局

〒103-0025

東京都中央区日本橋茅場町2丁目6番12号

Tel. 03-3668-6803

Fax. 03-3639-5404

URL : <http://www.soiken.or.jp/>

E-mail : mail@soiken.or.jp